

多様化する医学部受験

医科大学附属高校という 新たな選択肢



早くから医師を目指している 医師の家庭なら検討したい 大学附属高校からの「推薦入学」

子どもを医学部に進学させたいと考えている医師家庭は多いと思います。経済状況に左右されない安定性のある資格としての医師人気の高まりに加え、大学入試改革の影響により面接試験のウエイトが増すなど、入学へのハードルは高くなっています。そこで注目されるのが、医学部を持つ大学の附属高校からの内部進学という選択肢。親子で医師を目指す家庭にとって、進路選びの参考となる最新の医学部受験情報と医学部に内部進学できる大学附属高校について紹介します。



医学部人気はやや鈍化も倍率は高止まり

ここ十数年にわたり、医学部医学科の志願者数は毎年大幅な増加を続けてきましたが、昨年ようやく鈍化の兆しが見えました。

日本経済の回復に伴い、就職活動は空前の売り手市場で、国内の大手企業が軒並み初任給を上げるなど経済界全体で待遇の改善に取り組んだ結果、デフレ下で相対的に医師という国家資格による経済的メリットが優位性を示していた状況からはやや変化が見られます。理系の優秀な学生のうち一部はエンジニアを志望する傾向が強まるなど「東大・京大よりも医学部へ」という医学部人気は少し落ち着いたと言えそうですが、2025年度と26年度は、一時的に18歳人口が増加に転じることもあり、志願者数の増加傾向は続くと思定されます。河合塾が2024年秋に実施した第3回全統共通テスト模試における系統別志願者の前年比を見ると、国公立が102%、私立大学が104%でともに微増となっています。

人気は落ち着いたものの医学部医学科に入学する難易度は依然として高いままです。その要因の一つは、女子の医学部志願者が増加したことにあると考えられます。女性の社会進出とともに医学部進学を目指す女子は増加してきましたが、大きな転機となったのは2018年に複数の私立大学医学部で発覚した不正入試問題です。その後、男女平等な入試が実施されるようになったことで、国公立・私立を問わず合格者・入学者の40%以上が女子というケースも珍しくなく、一

部には過半数が女子という医学部医学科も存在します。実質的に存在していた男女の定員枠が外されたことで難易度が高止まりしている要因となっています。

2025年度に医学部医学科に合格するために必要な学力、いわゆる“ボーダー”の数値で見ると、すべての私立大学で偏差値が60以上となっています。東大や京大、私立であれば慶応大、早稲田大といった難関校の理系学部と遜色ない難易度です。表1にあるように私立大学医学部医学科の一般入試倍率は数十倍が当たり前という状況で、きわめて狭き門であることに変わりはありません。

医学部は大学入試改革の影響が大きい

2021年度から始まった改革の影響も重要です。大学入試において、「主体性」等の評価を追加することになりました。これまでは、英語や数学などの学科試験の成績で合否判定を行う入試でしたが、新たな評価基準に加えられた「主体性」等では、部活動や生徒会活動、ボランティア活動など科目の勉強以外が評価されることになったのです。

導入から数年が経過し、医学部入試の場合には、この「主体性」等の評価が一般学部 비해、大きなポイントになると言われています。なぜならば、医学部は選抜方式に関わらずすべての大学で「面接試験」が実施されており、「主体性」等の評価には面接試験がとても適しているからです。

2021年度から2023年度の入試では、高校生活がコロナ禍にあったために、「主体性」等の評価を見送る

大学もありました。高校生活が通常に戻ったことで、「主体性」等が面接試験での評価における大きなウエイトを占め、しっかりとした準備が必要となります。

医学部入試の面接試験では、①医師になりたいという意欲・自覚、②医師としての適性・資質、③患者や他科の医師、看護師など医療関係者とのコミュニケーション能力、協調性、④将来の医師像一などが評価されます。個人面接、集団面接、集団討論、MMIなど多様なパターンがあり、受験する大学に応じた形式で模擬面接を練習しておくことが重要になります。その際、大学のアドミッションポリシーや建学の精神について質問されることもあり、受験校の研究をしておくことが大切になります。

このほか2025年度からは新学習指導要領に基づく新課程が導入、大学入学共通テストに大きな変更が加えられ、医学部入試における影響も大きいと考えられます。新課程では、「情報」が必修科目です。例えば、東大や東京科学大では共通テスト全体の10%が「情報」に割り当てられるなど、新たな科目として早期からの対策が求められます。

新課程の導入に伴い、共通テストを避けられない受験生については負担がより大きくなると考えられ、医学部入試はさらに難化する可能性があります。

9割が医学部に内部進学する附属高校

大学入試改革の影響による面接対策の重要性の高まりや新課程の影響など医学部入試を取り巻く状況を踏まえると、やや志願者数の増加率が鈍化したとは言え、一般受験で合格を勝ち取るのは本当に至難の業です。そこで早くから医師を目指すことを決めている医師家庭に検討してほしいのが、医学部のある私立大学の附属高校からの内部推薦制度です。

内部進学の場合、一般入試に比べ試験科目が少なく、問題も解きやすいものが出題される傾向があり、入試のために費やす時間や労力は比較的軽いと言えます。

一方で、附属高校からの内部進学であっても医学部は狭き門であることに違いはありません。例えば私立最難関の慶應義塾大学医学部の場合、体育や音楽などを含めた全科目の評定平均が入学時から上位3%以内をキープすることが基準となっています。

しかし在校生の9割が医学部へ内部進学できる高校があります。全国で唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校です。2023年度の卒業生は、

表1 私立大学医学部医学科一般入試倍率(2024年度)

大学名	募集定員	志願者	倍率
岩手医大	73人	2379人	32.6倍
大阪医科薬科大(前期)	68人	1866人	27.4倍
金沢医大(前期)	72人	4291人	59.6倍
川崎医大	45人	1272人	28.3倍
関西医大(前期)	55人	2297人	41.8倍
北里大	75人	1995人	26.6倍
杏林大*	103人	2975人	28.9倍
近畿大(前期)	55人	1964人	35.7倍
国際医療福祉大	105人	3249人	30.9倍
埼玉医大(前期)	60人	1494人	24.9倍
順天堂大(A方式)	64人	2365人	37.0倍
昭和大(Ⅰ期)	83人	2391人	28.8倍
聖マリアンナ医大(前期)	75人	3210人	42.8倍
帝京大	86人	8346人	97.0倍
東海大	60人	3565人	59.4倍
東京医科大	74人	2797人	37.8倍
東邦大	70人	2931人	41.9倍
獨協医大(前期)	52人	3166人	60.9倍
日本医大(前期)	62人	1765人	28.5倍
福岡大	65人	2071人	31.9倍

※各校HPを基に編集部作成

*地域枠含む

表2 附属校からの医学部医学科内部進学者数(上位)

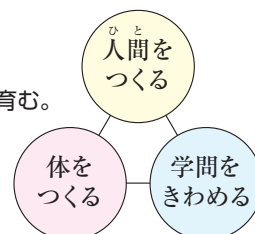
学校名(所在地)	男・女・共学	卒業生数	医学科進学者数
川崎医科大学附属高等学校(岡山)	共学	27	24
慶應義塾高等学校(神奈川)	男子	670	22
東邦大学付属東邦高等学校(千葉)	共学	310	22
獨協高等学校(東京)	男子	192	7
慶應義塾湘南藤沢高等部(神奈川)	共学	241	7
慶應義塾志木高等学校(埼玉)	男子	235	7
福岡大学附属大濠高等学校(福岡)	共学	634	5
東海大学山形高等学校(山形)	共学	304	2

※各校HPを基に編集部作成

27人中24人が内部推薦で医学部医学科へ進学しています(表2)。川崎医科大学附属高等学校に入学するには、学力とともに良医になりたいという高い志が求められます。そして入学者全員が医師を目指すため、少数精鋭の全寮制を導入しており、医学部進学を想定したきめ細やかな早期医学教育が実践されているため、高校生のころから医師に必要な基礎学力を身に付けることができるカリキュラムが揃っています。早くから医師を目指すことを決めている医師家庭にとっては、受験を検討する価値のある高校と言えるでしょう。

2025年度入試では 受験者27人全員合格

知性と人間性を磨き、『良医』と呼ばれる医師の基礎を育む。
それが私たち川崎医科大学附属高等学校の使命です。



難化が続く医学部受験において、選択肢として考えたのが、全国唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校だ。推薦制度による同医科大学への進学率が平均で9割を超え、2025年度入試では3年生受験者27人が全員合格した同校の竹田義宣校長に話を聞いた。

高校から歩み始める『良医』への道

——学校の特長について教えてください。

本校独自の教育プログラム「ドクターロード」です。本校は、創設者である川崎祐宣先生の「『良医』になるための人間教育を行う場として、医科大学と同時に附属高校を作らなくてはならない」という熱い思いを実現するために開校しました。ドクターロードは良医を育てるためのプログラムとして14年前から始まり、川崎医科大学と連携した全員参加型の体験型授業です。生徒たちが本物に触れ、本物を体験できる早期医学専門教育という性格を持ち、日本医学教育評価機構から高く評価されたと聞いています。

良医を目指すプログラム「ドクターロード」

——どのようなプログラムがあるのでしょうか。

プログラムは、医師へのインタビューや医科大学体験実習など「なぜ医師になるのか」「どんな医師になりたいのか」を考え、医学教育へのモチベーションを高めるような内容になっています。ドクターロードでは、医科大学の先生方が本気で後輩を育てようと向き合ってくれています。ある年の入学式で、生徒会長が

新入生に歓迎の言葉として、「他校の生徒は3年間で職業選択を考えます。本校は皆さん医師になる覚悟で入学していると思います。どんな医師になるのか、どんな人間になるのかを一緒に考えていきましょう」と述べたことがあります。ドクターロードを通じ、良医になるためのベースを身に付けている本校の生徒ならではの発言としてとても印象に残っています。

——授業以外での特長はどこにありますか。

生徒全員が3年間同じ場所で生活をする全寮制ということです。寮は10畳の完全個室で2畳のウォークインクローゼットも完備しています。10年以上前の卒業生が一番驚くのが寮の環境の素晴らしさです。セキュリティ面も配慮されています。本校の寮は教育寮なので、舎監と寮職員が生活をともにしながら、3年間サポートします。入学時は中学を卒業したばかりで皆頼りなく見えますが、3年生になるころには心も体も本当に逞しくなります。共同生活の経験が生徒を大きく成長させるのだと思います。

附属高校入試改革をスタート

——医科大学への推薦選抜について教えてください。

医科大学の募集要項に本校のみが対象の学校推薦型選抜の定員が明記されており、約30人の枠が例年確保されている点が特長です。推薦書には「医学を学ぶ能力と適性」という項目があるので、そこが重要にな



竹田義宣校長

医師への夢を強力にサポートする川崎学園ネットワーク



ります。良医を目指すために9年一貫教育というシステムをとっているのも、学力だけでなく、良医に必要な「知・徳・体」のバランスが大切になります。

——高校入試に特長はありますか。

現在実施している専願入試、一般入試に加えて、より強くアドミッション・ポリシーに合致している生徒を求めるために、新しい入試区分を加える予定です。学科試験に特化せず、多面的・総合的に判定する入試区分や英検・GTECなど英語の外部検定試験の得点化を実施します。

医師を目指す生徒にとって最高の環境

——受験生・保護者にメッセージをお願いします。

本校は全国で唯一の医科大学附属高校で、医師になる決意を持って入学してくる生徒にとっては最高の環境です。医科大学に必要な基礎学力を身に付けることができます。医師になるために集まった仲間たちとの3年間の寮生活を全うすることで、共感性や思いやり、協調性、コミュニケーション能力といった良医に欠かれない資質が育まれます。良医を目指す全国の受験生の入学を期待しています。

全国で唯一の医科大学附属高校

全国で唯一の医科大学附属高校という特長を生かし、本校では高等学校の3年間だけでなく、医科大学の6年間をも含めた「9年一貫教育」を実践しています。本校での3年間は『良医』という目標を意識した教育を展開します。医科大学での授業をはじめ、医学に対する基礎を固める充実した3年間を過ごすことで、その先の6年間の学びをより深く実りの多いものとします。

開校以来の川崎医科大学への進学率

90.3%

本校卒業生1,808人中、川崎医科大学への進学者は1,632人(2023年度卒業生まで)で、進学率は90.3%に達しています。
※他大学を含む医学部進学率 94.3%

過去3年間(2022～2024年度)の川崎医科大学入試の倍率

附属高校からの
学校推薦型選抜倍率

1.2倍

志願者数75人
入学者数65人

一般選抜倍率

23.4倍

志願者数3,907人
入学者数167人



医師へのインタビュー



川崎医科大学総合医療センター見学



医科大学体験実習



テーマスタディ

■3年間の表彰テーマ

2022年度	最優秀賞 「歯から溶出したカルシウムイオン濃度の測定方法の確立」 優秀賞 「家庭でできるカレーの有効な保存方法～pH変化の測定～」
2023年度	最優秀賞 「視覚障がい者が楽しめる美観地区観光」 優秀賞 「低糖質食品のレシピ作成～おいしく手軽な蒸しパンを～」
2024年度	最優秀賞 「基礎医学の理解をサポートするカードゲームの開発について」 優秀賞 「子供向け津波教材を作ろう！～防災意識を高めるための教材作成」 優秀賞 「勉強して疲れた脳に必要なエネルギー源」

テーマスタディで得た研究力を生かして、医科大学進学後、オックスフォード大学での研修に参加する卒業生もいます。

「良医」を目指す体験型授業 “ドクターロード”

医師は知識や技術だけでなく、その人格をも厳しく問われる職業です。本校では多彩な体験型の学びを取り入れた教育プログラムを実践。医学に関するさまざまな体験を通して、生徒一人ひとりの内面を磨き、『良医』となるための自覚を育みます。

Doctor Roadの主なプログラム

1・2年次に実施している総合的な探究の時間が「Doctor Road (ドクターロード)」です。川崎医科大学や3つの附属病院などで、医学に関する、横断的・総合的な学習を行うことを通して、「良医」を目指すためによりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成します。

現代医学教育博物館研修	現代医学教育博物館は、豊富な実物標本で現代医学の全般が学べる施設。1年次の1学期に施設で研修し、医学の歩みを学びます。
医師へのインタビュー	1年次に生徒自らが診療科を選択し、質問事項を考えて、川崎医科大学附属病院・川崎医科大学総合医療センターの医師に1対1でのインタビューを行います。
メディカルスクール・アワー	1・2年次に川崎医科大学の教員による高校生向けにアレンジした専門的で高度な授業を受けます。
3つの附属病院見学	1・2年次に川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センター、川崎医科大学高齢者医療センターの最先端の医療機器や医療環境を見学します。
旭川荘研修	社会福祉法人旭川荘は障がい者・高齢者のための関連施設。1・2年次に施設での実地体験を行い、医療福祉の現状を学びます。
医科大学体験実習	2年次に2～3人のチームに分かれて、川崎医科大学の基礎・応用医学の研究室で解剖学や生理学などの体験実習を行い、実習レポートを作成します。
卒業生講話会	医師として活躍している卒業生の本音の講演を聴きます。
テーマスタディ	2年次に3～4人のチームに分かれて、研究テーマを決め、調査や実験・観察を行い、発表します。医科大学の先生が審査員となり優秀なチームは表彰します。

川崎医科大学 入学前研修

例年、川崎医科大学学校推薦型選抜に合格した附属高校生を対象に、医学への意識を高め、大学カリキュラムへ円滑に接続することを目的とした、21日間、124時間の入学前研修を実施しています。今年度、医科大学を受験した3年生(53期生)27人は全員合格し、午前は附属高校、午後は医科大学での研修に臨みました。

参加者はすべてのカリキュラムに真剣に取り組み、特に骨学実習をはじめとする医科大学での授業については、献体された方やその家族の思い、医科大学の先生方の思いに応えるためにも、感謝を忘れず全力で取り組みました。



大学での科学実験



学長講話

『数学・英語・理科』を重視した独自の教育プログラム

医科大学の進学を視野に入れた、本校独自の教育プログラムを構築。将来、医学を学ぶために重要な基礎となる数学・英語・理科に重点を置き、徹底指導していきます。数学は問題演習による応用力、英語は「読む・書く・聞く・話す」の総合的能力、理科は物理・化学・生物の3科目すべての大学入試レベルの学力の育成を行います。2022年度からは医科大学でも使用可能なタブレットを一人一台ずつ導入し、授業などで活用しています。



iPadの活用

少人数制を導入、生徒一人ひとりに目が行き届く環境

少人数制

生徒一人ひとりの学習を着実に伸ばすために、少人数制を導入しています。生徒一人ひとりの習熟度を確かめながら、必要に応じて放課後や土日の補習、個別指導などきめ細やかな指導を行います。

授業時間外でも教員が個別に対応

本校には授業時間外でも勉強や進学について、いつでも教員に質問・相談できる環境があります。教員室の前にはホワイトボード、学習室には個別の学習スペースがあり、教員がその場ですぐに質問に答えたり、勉強を教えたりすることができます。



学習室



学習室での質問対応

男子寮



女子寮



仲間と過ごす全寮制の3年間で 自立心と協調性が育まれ、一人 ひとりが大きく成長

本校は全寮制。寮は学校敷地内にあり男子寮と女子寮に分かれ、完全個室でプライバシーが守られています。全体集会ができるラウンジや共同キッチンなどを完備しています。校舎棟へは専用通路でつながっており、セキュリティも万全です。寮生同士がコミュニケーションをとるスペースとしてフロアごとに談話室があり、それぞれが自主性、協調性をしっかり育める環境を整えています。3年間で仲間とともに過ごす中で、生徒一人ひとりが自分と向き合い、仲間同士で励まし合いながら、「医師になる」という同じ目標に向かって前進していきます。



男子寮／玄関

舎監・寮職員がともに生活しながら生徒を見守り、支えています

共用施設

セキュリティシステムを完備し、 勉強に集中できる、快適で安全な環境

本校は寮と校舎棟が同じ敷地内にあり、便利で快適な環境のもと、規則正しい生活を送ることで勉強に集中することができます。寮では、舎監・寮職員が生活を見守り、生徒たちの毎日をきめ細やかにサポート。施設設備もカードキーなど万全のセキュリティシステムを完備し、安全を確保しています。



セキュリティドア

オートロック式で不審者の侵入を阻止。いつ誰が通ったか記録が残ります



売店

サービス棟にある高島屋の売店。文房具や軽食などを販売しています

食堂や売店を完備 学校生活を楽しく、便利にサポート

本校のサービス棟には食堂や売店（高島屋）を完備。友達とおしゃべりをしながらランチタイムを過ごしたり、毎日の生活に必要なものを購入したりすることができます。学校生活が快適で楽しく、便利に過ごせるようにサポートしています。



女子寮／個室

十分な広さを持つ個室は、集中して勉強できる快適な空間です



寮の食事

食事は栄養士と調理師が管理し、生徒たちの健康をしっかりサポートしています

部活動や学校行事などすべての 経験が将来の糧に

全人教育の一環として、本校では生徒全員の運動部参加を義務付けています。スポーツを通じて身体を鍛え、人間性を養うことは高校生にとっても、将来医師として活躍するためにも重要です。また、学校行事など仲間と共有する時間は、高校生活の大切な思い出となり、将来の大きな糧となるはずです。



広報誌「いくさか」、「学年通信」

ホームページ、広報誌「いくさか」、「学年通信」で情報を発信

生徒たちの学びの様子や学校行事などのスクールライフを、ホームページ「附属高校の今」で公開、広報誌「いくさか」、「学年通信」を作成し、保護者に送付しています。また、年3回実施する保護者懇談会で成績状況や指導方針を保護者へ伝えています。

健康な身体づくりと人間性を育成 運動部へは全員が参加

スポーツを通じての健康な身体づくりと豊かな人間性の育成を目指し、全員が運動部に所属しています。現在、テニス部、サッカー部、陸上部、バスケットボール部、剣道部、バドミントン部、バレーボール部の7つの部があり、授業後に活動を行っています。



部活動

運動部には生徒全員の参加を義務づけ。健康な身体と人間性を育みます

■ 平日のタイムスケジュール



受験のためだけではない勉強ができる

卒業生から見た附属高校の魅力の1つ目は、川崎医科大学への学校推薦型選抜制度があり、医科大学への進学実績が9割以上ということです。これは、何浪もして医科大学に一般入試で合格した人の話を聞くと本当に大きいと感じます。受験勉強で燃え尽きることなく、医科大学入学後も医師になるための勉強に全力を注ぐことができます。

2つ目は、受験のためだけではない勉強ができることです。受験勉強もちろすごく大事ではありますが、受験勉強的な正解・不正解だけの勉強ではなく、その問題の考え方を学んだり、自分が持った疑問を積極的に調べたりすることに時間を使うことができました。

さらに、私は全然関係ない分野の勉強をしてみたり、受験に全く繋がらない本を読んでみたりして、すごく知識

の幅が広がったと感じています。この自由な学び方で勉強を楽しむ感性を養えたことは、大学の勉強でもとても役に立っています。医学部入学を目指しながら、受験以外の勉強もできる余裕を持てたのは附属高校の環境のおかげだと思っています。

3つ目は、人との付き合い方が学べることです。寮生活を通じて、自分から積極的に人と関わる大切さを実感し、知らない人と関わっていくのはとても面白いことだと知ることができました。また、寮生活で四六時中人と関わり続けることで、一人の時間の大切さもわかってきます。一人の時間と、人という時間、自分にとってどんなバランスがいいかわかるようになったのも、寮生活の大きな魅力だと思います。

大人になるにつれて、知らない人ばかりのところ一人で飛び込まなければ

いけないことが増えてきます。一人で新しい環境に飛び込むことができると、いろいろなことに恐れず挑戦でき、自分の世界を広げることができます。そんな時に頼りになるのが附属高校の先生方です。附属高校は少人数制のため、先生と生徒との距離がとても近く、本当に親身になって接して下さるので、なんでも相談できる心強い存在です。

私は、3年間の充実した高校生活を通じて、新しいことを知る楽しみとかけがえのない仲間に出会うことができました。



卒業生が語る 「私の川崎医科大学附属高等学校」

毎日の夜間学習で学習習慣が身に付く

私が附属高校に入学した大きな決め手は、医学部への高い進学率と父の一言でした。私の家族には医療従事者が多く、将来は医療に関わる仕事がしたいと思っていましたが、はっきりと医師になりたいという決心はできていませんでした。しかし、地元（福井県）の高校に入学しても将来が確約される学校は無く、少人数制の附属高校で学んだ方が近道だと思い、受験を決意しました。また進路で悩んでいた時、父の「早いうちに外の世界をしてみるのもいいんじゃない？」という言葉が私の背中を押してくれました。

私が附属高校に入学して良かったと思う点は3つあります。まず1つ目は勉強面。理科は物理・化学・生物の3科目をしっかりと学べるため、大学1年生で学ぶ医用物理、医用化学、生命化学の勉強にスムーズに取り組むことが

できました。附属高校以外の医科大学の同期たちは、高校の理科は基礎しか習ってない科目もあったため苦労していたように感じました。また、附属高校には「ドクターロード」という総合的な探究の時間があり、実際の医療現場で働く医師にインタビューを行うなど、自分が医学の道を歩んでいくことを改めて実感させられる貴重な経験ができました。

2つ目は日々の学習習慣が身に付くことです。基本的に毎日ある夜間学習では、個別で先生に質問をしたり、外部講師の方が教えてくださったり、とても充実したものでした。この習慣のおかげで大学での膨大な量の勉強をこなし、試験前に余裕を持つことができます。

3つ目は長い交友関係を構築できることです。親元を離れた寮生活に不安

を抱いていましたが、附属高校の同期はとてもフレンドリーで、人見知りの私でもすぐに仲良くなることができました。今でもみんなで勉強したり、ご飯を食べに行ったりと、気の置けない仲です。同じ志を持つ仲間と共に歩んだ3年間は私にとって一生の宝物です。

附属高校では自分が将来どのような医師になりたいのか、そのためには今どうしたらいいのかを考えられる時間が多くありました。将来を決める決断はとても重いですが、私は今、附属高校に進学するという決断をして良かったと思っています。



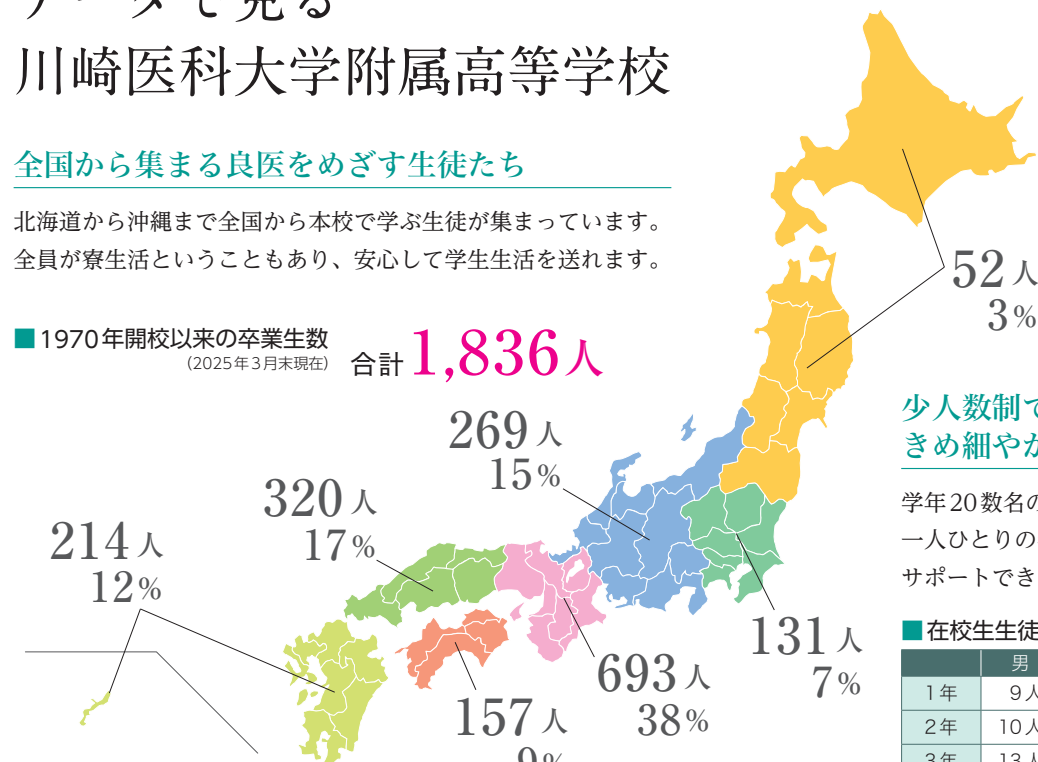
データで見る 川崎医科大学附属高等学校

全国から集まる良医をめざす生徒たち

北海道から沖縄まで全国から本校で学ぶ生徒が集まっています。全員が寮生活ということもあり、安心して学生生活を送れます。

■ 1970年開校以来の卒業生数
(2025年3月末現在)

合計 **1,836人**



少人数制で きめ細やかな対応

学年20数名の少人数制により、一人ひとりの学習をきめ細かくサポートできます。

■ 在校生生徒数 (2024年度現在)

	男	女	合計
1年	9人	12人	21人
2年	10人	11人	21人
3年	13人	15人	28人

川崎医科大学附属高等学校の施設

本校キャンパスは市街地から少し離れた豊かな自然の中にあり、静かな環境で勉強に集中することができます。また主要な施設は通路でつながっており、移動のたびに外に出ることはなく、安心安全な学校生活を送ることができます。



渡り廊下

同一敷地内にある寮から校舎棟まで通路でつながっているため、登下校も安心。



図書室

約2万5千冊の書籍を収蔵しており、医学系の書物が充実。また医大図書館からの取り寄せも可能。

- 校舎棟
- サービス棟
- グラウンド
- 体育施設
- 男子寮
- 女子寮



校舎棟マルチメディア教室



体育館

新しい入試区分が加わります

新制度の内容については学校説明会・オープンスクールで詳しくご説明します。

学校説明会・オープンスクールへの参加

入試対策【実践編】(英語・数学)*への参加 [実施日: 10月26日(日)] *総合判定型入試【専願】を受験される方は参加必須

進学相談会への参加 [申込締切: 10月26日(日)]

1/18(日)

新設

総合判定型入試
【専願】

学科試験に特化せず、アドミッション・ポリシーに合致している生徒を多面的・総合的に判定する入試です。

1/18(日)

専願入試
(学科試験型)

2/15(日)

一般入試

新設

英検・GTECなどの外部検定試験の級やスコアによる加点を行います。

2025年度 川崎医科大学附属高等学校イベントのご案内

イベント名	日付	時間	都道府県	会場
学校説明会	5月11日(日)	①10:00～12:30	東京	東京コンファレンスセンター・品川
		②14:00～16:30		
	5月18日(日)	14:00～16:30	福岡	TKPガーデンシティ博多新幹線口
		14:00～16:30	愛知	TKPガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口
		14:00～16:30	大阪	新大阪丸ビル別館
第1回オープンスクール	7月20日(日)	10:00～15:00	岡山	川崎医科大学附属高等学校(倉敷市)
第2回オープンスクール	8月24日(日)			
第3回オープンスクール 【入試対策【実践編】実施】	10月26日(日)			
学校説明会 【入試対策【実践編】実施】	10月26日(日)	10:00～12:40	東京	東京コンファレンスセンター・品川 ※本校第3回オープンスクール同時開催
進学相談会【完全予約制】 参加申込締切: 10月26日(日)	11月22日(土)	15:00～18:00	東京	東京コンファレンスセンター・品川
	11月23日(日)	9:30～15:00		
	11月22日(土)	15:00～18:00	岡山	川崎医療短期大学(岡山市)
	11月23日(日)	9:30～18:00		
	11月30日(日)	10:00～17:00		
学校見学会	11月22日(土)	10:30～12:30	岡山	川崎医科大学附属高等学校(倉敷市)
	12月25日(木)	10:30～12:30		

〈お願い〉スムーズにご案内させていただくため、進学相談会以外のイベントにも参加予約をお願いします。また、今後日程が変更になる場合があります。最新情報は本校Webサイトでご確認ください。

「親子で医師の道へ
ファミリートーク」
は公式サイトでご覧いただけます。



全国で唯一の医科大学附属高等学校

川崎医科大学附属高等学校

〒710-0002 岡山県倉敷市生坂1661
TEL (086) 462-3666

■本校へのアクセス

- *岡山空港経由
 - ・空港よりタクシーで約40分
- *JR経由
 - ・岡山駅よりタクシーで約40分
 - ・中庄駅よりタクシーで約10分
 - ・倉敷駅よりタクシーで約15分
- *山陽自動車道経由
 - ・倉敷ICから約3分

イベント参加申込は
こちらから



最新情報は
こちらから

